

針ノ木岳山スキー(2019年)報告

【山城】北アルプス・針ノ木岳

【日程】2019年6月2日(日)晴れのち曇り

【メンバー】CL菊池・池田・薄井・瀧瀬・会員外1

【行程】千葉―扇沢―右岸作業道―藪漕ぎで蓮華大沢に少し入る―雪渓―マヤクボ出会
―マヤクボカール―スバリ岳とのコル―往路を滑走―1750m まで滑走―登山道―大沢小屋―橋―右岸作業道―扇沢―帰葉



・例年山スキー終盤に恒例となっている針ノ木岳山スキー、今期は6/2に行ってきました。スタート地点の百瀬慎太郎の歌碑の前で記念撮影して出発です。今回は針ノ木雪渓山スキー初体験の2名を加え総勢5名です。小生が初めて針ノ木岳山スキーを経験した16年ほど前も6月第一週の百瀬慎太郎祭りの頃であったが、今回も大



勢の登山者がこのイベントに参加していた。右岸の作業道を進むが例年よりこの辺の残雪は少ないようだ。左岸にある大沢小屋が近づいても残雪が少なく、登山者は橋を渡り小屋経由のルートに進んでいるが、何とか少し進めば雪が繋がっているであろうと期待して、そのまま右岸を進むことにしたが、この選択が大間違い、強烈な藪漕ぎとなり蓮華大沢方向に少し進み、右往左往するはめとなってしまった。



堰堤を超え 1700m 地点でようやくシール登高可能地点に到着したが、かなりの時間ロスと体力を消耗してしまった。大沢小屋経由の多くの登山者は、順調に先の安定した雪渓に降り立っているのが見える。毎年のように訪れているのに、今回は判断ミスでメンバーに迷惑を掛けてしまった。



- ・百瀬慎太郎祭のイベントに参加の登山者が大勢集まっている。お神酒が振舞われているようだ。マヤクボカールを狙っている若手3人には先行していただいた。



小生と TA さんはゆっくりジグを切りながら急斜面をクロー装着でシール登高した。イベ



ント参加の登山者も隊列組んで針ノ木峠に向かっている。

シール登高開始後、2 回ほど休憩を取りようやくマヤクボカールとの出会いに到着した。



相棒の TA さんは寝不足などの影響もありペースダウン、これ以上登り上げることは滑走にも影響するため断念、この地点を滑走開始地点とした。先行する若手 3 名がマヤクボの急斜面を登っているのを眺めながら休憩をとった。コルから黒部湖、立山連峰、剣岳などの雄姿をゲットできた。





マヤクボ斜面は縦溝などなく滑りやすい状況で、急斜面の狭いノドのエリアのクラックもそれほど大きくないようで、横滑りなどを駆使して安全地帯まで順調に滑走できたようです。



- 出会いから下部の雪質は滑りやすいザラメであるが、下部に行くほどデブリやうねり、落石などの影響があり滑りやすいエリアを選択しながら慎重に滑走した。TAさんは初体験の大雪渓滑走であるが無難にこなしています。シーズン終盤の汚れた雪渓であり凹凸だらけであるが、まあまあの滑走感、



TAさんの安定したフォームです。



滑走終了地点は 1750m の登山道に移行する地点である。次週の乗鞍を滑り納めと考えているが、梅雨入り間近で今回は滑り納めとなるかも・・・ Vサインで記念撮影した。雪渓から登山道に這い上がり、大沢小屋を通過した直後に右方向に進み右岸の作業道に向かいます。



そこから往路で藪漕ぎ下蓮華大沢方面が望めます。この時期は残雪量が少なく、朝の判断は間違いで強烈な藪漕ぎの洗礼を浴びてしまいました。この時期は新緑が美しく、ツツジやオオカメノキの白い花が楽しめました。

百瀬慎太郎祭りに合わせて掛けられたと思われる橋を渡り、往路に使用した作業道に戻りました。朝もこの橋を渡り大沢小屋経由にしていればよかったのにと反省しきりです。





次週に、例年滑り納めとして乗鞍岳を計画しているが梅雨入り間近となったため、今回の針ノ木岳が滑り納めとなる可能性があります。6か月以上に及ぶ山スキーシーズン、ご同行くださった皆さん、ありがとうございました。今期は怪我人はなく、ジャンルLとしてほっとしています。来期も安全な山スキーを楽しみましょう。

